繁殖部会のこれから
～受胎率向上のために～

以前から釧路地区ＮＯＳＡＩには、技術向上と最新情報の共有等を目的として、乳房炎部会と四変部会がありました。しかし、繁殖に関わる会はなく、世界的に受胎率の低下が問題となっている中、職員も牛の繁殖について、もう一度、学ばなければならないと考え、獣医師も人工授精師も同じく牛の繁殖に関わる技術者ということで垣根を取り払い、技術向上と情報の共有等を目的に８年前に繁殖部会が発足しました。

二ヶ月に一回、獣医師と人工授精師が集まり、一般業務以外に取り組んでいる牛の繁殖関係の仕事、興味を持っていることや学会に参加して牛の繁殖に関して有効だと思ったものを発表してもらう勉強会を行っています。その後、参加者での活発な意見交換を行ってきましたが、同じようなことを考えている職員が意外に多く、具体的な対策もいろいろと発言されて、予定時間を超えることが多かったように思います。年に一回は大学や研究機関の先生を招いて講習会を開き、「かけはし」の記事でも紹介させて頂きました。これらの記事については、釧路地区ＮＯＳＡＩホームページ内の『研究レポート コーナー』に掲載されていますので参考にしてください。

繁殖部会が取り組んだひとつの例としては、「かけはし191号」の「ＰＧで人工授精したらどれくらい受胎するの？」という記事です。平成17年度から平成18年度の２年間、授精所を持つ７診療地区で、乳牛診療カルテから、ＰＧが投与された延べ１７１８件を対象に調査しました。この調査を要約しますと「ＰＧを10頭に投与すれば、６頭に授精できて、３頭が受胎した。」ということでした。治療行為としてのＰＧ投与成績として、ほぼ満足であると思われました。獣医師も人工授精師もＰＧを打った乳牛がどのくらいの割合で受胎しているかというのは知りたいと思っていたことですから、組合員にも職員にも有益な調査だったと思います。

また、「かけはし」では超音波診断器の妊娠鑑定への利用法、ホルモン剤、シダーに期待する効果と利用法などを紹介してきました。これからも多くの情報を組合員に提供する場になればよいと思います。

現在進行中の調査の内容をお知らせします。人工授精後５日目にｈＣＧ（ゴナトロピン）を投与して受胎率を高めようとする試みは、組合員にも浸透しつつあり、一定の効果が得られていると思います。このｈＣＧの濃度を低くして（＝低価格で済む）同じような効果が得られるのかということを現在調査中です。

また、阿寒釧路地区の組合員、人工授精師に協力していただいて、追い移植の受胎率を上げるために人工授精後５日目に低濃度のｈＣＧの投与をさせてもらいました。結果は妊娠（＋）が15頭中４頭（追い移植するまでの平均授精回数６．７５回）、妊娠（－）が15頭中11頭（平均授精回数は５．９回）で、受胎率36％でした。釧路地区ＮＯＳＡＩの授精所での追い移植の受胎率が約50％ですから、残念ながら、いい結果ではありませんでした。濃度の問題や投与するタイミングなどを考えなければならないと感じました。もう一つ、ＥＴ（追い移植ではなくて普通の移植）で、移植２日前に低濃度のｈＣＧを投与してもらった結果、妊娠（＋）は９頭中４頭で受胎率が約40％でした。頭数が少ないのでわかりませんが、これから頭数を増やしていけばいい結果につながるかもしれません。

繁殖部会では、このような調査結果をこれからも発信していきたいと思います。

次号では、繁殖部会発足当時からの同志である村井浩之授精師に、今回も少し触れた追い移植のお話をして頂く予定ですので楽しみにしていてください。

繁殖部会はこれからも加入畜の繁殖向上のために勉強して、組合員に還元して行きたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いします。

釧路地区ＮＯＳＡＩ
繁殖部会　部会長　石川行一